

<展覧会開催のお知らせ>

この度、「伝えるー災害の記憶」あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料「明治の災害とメディア」展を9月1日の防災の日から開催します。

今回展示される資料は、あいおいニッセイ同和損保の前身社のひとつ「同和火災海上保険」初代社長 廣瀬鉞太郎（ひろせえつたろう）が自ら経験した関東大震災をきっかけに収集したもので、その数およそ1400点。その中核は日本全国で起きた地震、津波、噴火、台風、大雨、雷、大火、疫病等々あらゆる種類の災害記録で、時代も江戸時代中期から大正時代まで200年以上におよぶ膨大なものです。今まで全国の博物館での実物展示や画像をデジタル化し解説を加えたデジタルミュージアムを通じて公開されてきました。

本展示では明治以降近代となり、メディアがどのようにして災害を伝えていったかという視点からご紹介します。皆様と一緒に災害に対する心構えや備えについて考えるきっかけとなれば幸いです。

■主な展示内容

江戸時代まで、災害の有様は主に木版などで刷られたものによって知ることができます。明治維新後になると次第に石版や銅版にかわり、やがて写真入りのものが登場し、メディアは技術を駆使して災害を生々しく伝えることに注力するようになります。多種多様に発刊された新聞や雑誌による詳細な報道と惨状を描いた克明な画像は、災害支援活動や各地からの義援金を広く募ることに大きな力となりました。

今回の展示では以下の2つの災害を中心にご紹介をしています。

「濃尾地震」明治24年(1891)

マグニチュード8.0のこの大地震は、現在の岐阜県や愛知県を中心に甚大な被害をもたらしました。報道記者は「ギフナクナル」の第一報を発したとされます。また、これを機に「震災予防調査会」が設置され、わが国における本格的な地震研究の端緒となりました。



「濃尾大地震後図」
豊原国輝 明治24年(1891) 錦絵、三枚続



「岩手県青森県宮城県大海嘯画報」
小国政 明治29年(1896) 錦絵、三枚続

「明治三陸地震津波」明治29年(1896)

三陸沖を震源とする地震による大津波が甚大な被害をもたらしました。日清戦争が終結し、従軍画家たちはこの災害に対して、今度は報道画家として活躍の場を広げます。被害状況を克明に捉えるだけでなく、現場で取材した美談や悲惨な事件も絵にしました。そこからは近代国民国家の道德観や倫理観を汲み取ることができます。

■展覧会概要

タイトル	「伝えるー災害の記憶」 あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料「明治の災害とメディア」展
会 期	2024 年 9 月 1 日（日）～9 月 2 9 日（日） 11:00 ～ 19:00（月曜定休・最終日 17：00 まで）【入場無料】
会 場	UNPEL GALLERY 東京都中央区日本橋 3－1－6 あいおいニッセイ同和損保 八重洲ビル 1F
主 催	UNPEL GALLERY
企画協力	一般財団法人 NHK 財団
資料提供	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

【展覧会・掲載資料他 お問い合わせ先】

■UNPEL GALLERY（担当 / 井上、内城）

E-mail / tsubaki@unpel.gallery

TEL / 03-3548-7780 FAX / 03-3548-7781

■あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 広報部広報室（担当 / 三浦）

TEL / 050-3461-7235